

二・中川沿いにある下妻街道とその迂回路

加藤 幸一

左の図1に見られる石塔は道標付きの塞神塔である。現在この石塔は、越谷と草加の境を流れる戦後にできた千足幹線排水路の南側沿いにある(図2の明治13年測量の迅速測図中の右側にある○印)。古老によると、以前はこれより少し北にあったが(図2の中の○印)、ここに移転してきたという。元の地点は迅速測図では、北西の先にある十字路の地点であろう。残念ながら開発により周辺の古道は図2の吉川ルート^{しもつま}の道を除いて、ほぼ消滅している。

下妻街道は、越谷市内では中川の河川敷に中川に沿って今でもその一部がみられる。北に進むと吉川、南に進むと江戸に通じる古道である。中川が洪水になると下妻街道は浸水して使えなくなり、そのための迂回路が必要となる。その迂回路の存在を解くヒントが図1の道標(道しるべ)といえる。この道標によると、図2の明治の迅速測図に示されたように、南に進むと江戸方面を通じ、北に進むと吉川に通じるという(次頁の地図も参照)。吉川からは、さらにその先の東北(奥州)方面へと進むことができる。下妻街道に並行するこの二つの道筋が、下妻街道の貴重な迂回路と推測することができる。村人が住む家々のある本村の西端はずれに、その古道が南北に見られたのである。この古道の西側隣には、広大な田んぼが広がる田園地帯が見られる。その田園地帯の中を西方面に進むと日光街道と合流し、草加に通じる。

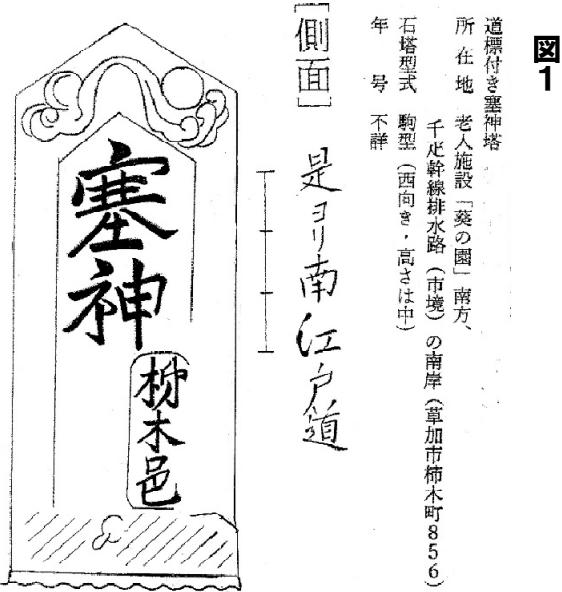
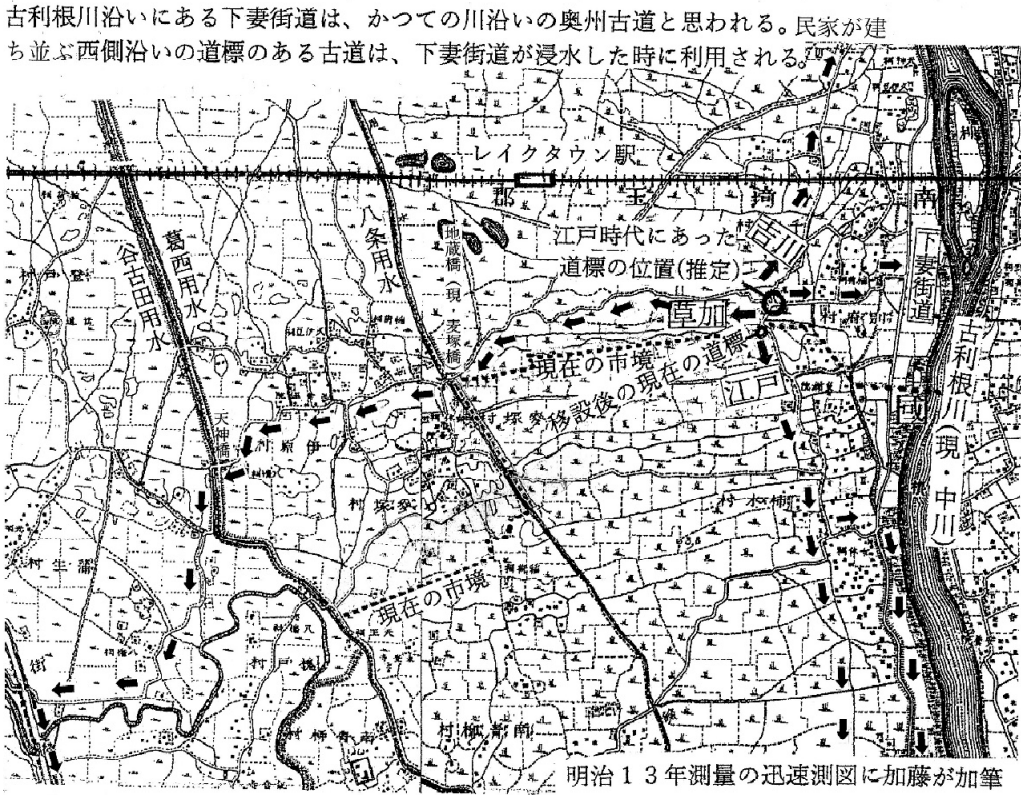


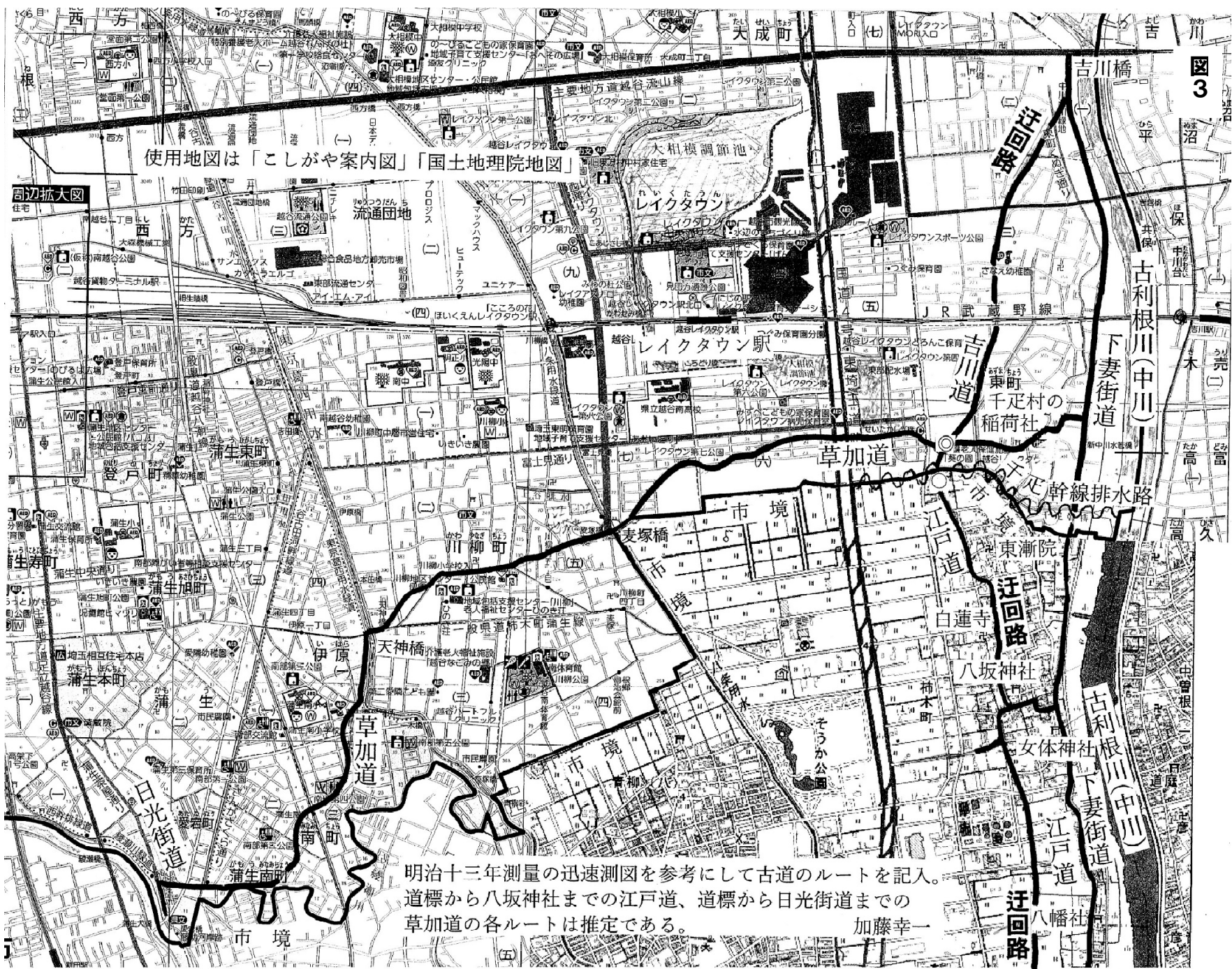
図2



明治13年測量の迅速測図に加藤が加筆

古利根川沿いにある下妻街道は、かつての川沿いの奥州古道と思われる。民家が建ち並ぶ西側沿いの道標のある古道は、下妻街道が浸水した時に利用される。

- 〔側面〕 是ヨリ北吉川道
- 〔裏面〕 是ヨリ西草加道
- 〔左側面〕 是ヨリ南江戸道
- 〔正面〕 塞神 (二猿カ)
- 〔右側面〕 是ヨリ北吉川道
- 〔裏面〕 是ヨリ草加道



左は現在の地図である。地図の左端、中川（かつては「古利根川」と呼ばれた）沿いに南北に見られる下妻街道（太字）があるが、これに対して、下妻街道と並行する陸地側の古道が下妻街道の迂回路であると思われる（「迂回路」との文字が入る太線）。